抜書目録

百集文字のこと

同字の清濁

連字の仮名づかひ

古文古歌一叶の事

酒徳頌の事

蘭亭記の事

古賦 每篇

[illegible]

百人一首のこと

伊勢物語のこと

源氏物語の詞

陶淵明の詩の事

五柳先生伝 家明の事

王羲之筆の事

唐音の詩の事

[illegible]

早稲田大学文学部図書

特定課題

雲英末雄

58- 3936

考文自筆の多
源氏物語秘決目録

源氏の多

[illegible]

源氏秘抄 巻下

一東溫(ミナ)と閲すること建保元年十一月藤原
定家秘本の万葉集抄實朝卿より贈られ
定家卿の道の門弟三人の上なる常盤井
相国 衣笠内大臣 通倉右大臣実名也
一万葉集の鼻祖なる歌人きもの也 文字とも
なりて多年愛紫のみとなる事第一也
吾船者牧乃湖尓榜將泊奥部莫避左夜深去来
[illegible]の。一字ばかりそえ[illegible]
[illegible]の心也 [illegible]

ゆく事をしらぬ心也　月疑零疑　くもらぬ間
なうらむの心也　待黄変　うつろひめんのうら葉ハ
黄ゝ変せんとすの心也　峯乃上　雪者雖零
高くいへども　今落莫　ちらむ時のあるべしの心
○岳乳根之母我養蚕乃眉隠馬叫蜂音
石花蜘蛛　荒蛟異母二不相而
いかなる物の間ぞ　なぐさまるべきいやか
ぬ心也　ひとすらにうらみわすれての心也　この字ハ
ゆくてとの間ぞとゆくもうらうらきるゆしてとゆ

ゆく通するかてきゆ間ぞとゆる心　賛の一字もまこと
万葉ハいにしへとくもよりみたる賛ハ　ゆるゆる
吾恋者　老者　このうらの間ぞ心ゆるゆる助字也矣
文章乃要字也　豫　ためらひの心　欲得
ゆるひの詞也　ゆるしと欲すの二字まて也へし
石尚　民副　すゑ　ゆるすゑ　ゆるすゑの心
詞ゆるす　民ゆるの心　ゆるすゑ　ゆるすゑの
ゆる詞副　ゆる心　源氏　ゆるし　きゆる詞の義に
ゆるゆるの心　ゆるゆる　ゆるゆる

[illegible]
乃津いとかふ割ものみ[illegible]
を副るなり　〱及相日〱及意　まてよとの詞を
[illegible]　〱紙　伊勢物語のこれ
よりてを紙のこころや　〱意云　てはいかとしや
ゆふこの二句をすると連歌の式やいはゆる人の
連歌　小和もこれはいかにもいはれ
を祖白考り点[illegible]
いく伝と批判乃賠[illegible]

むのるやいはの郷士[illegible]
宮ゆふ[illegible]
むとやんやとゆふ　〱将関　めやの河せきとめ
〱遠所来　こゝ[illegible]　将行非　同名落
ゆむをよく意語　〱否藻　諸藻　こゝ[illegible]
かんしてうばゆふ　〱妨水逝　はあて水のゆく
いく意とゆふ　〱東風　越後の河よ　東風
心や　〱辻風　[illegible]
ゆふや　〱如是意　[illegible]

かくのごとくや　家鶏乃蜜尾乃亂尾　ふるあ
さ　ふる高尾や　降る　ふりはの心もふりあら
の心や　眠不寝　眠てもねられぬ心や
宿鳥　かねて孫はめんの心や　朝魚多業
朝夕の魚業乃心や　汐満　海乃潛　かつくハ海廻
をくらゆくこと　汐満来者　潟無　くらゆくこと
干くさしを心　慎　よりもんをよりしよの
心
居文字　ゐはひるまて　河のあら昭白やとくく

ふるあ　ふるあ　ふるあ　ふるあ　ふるあ　ふるあ　ふるあ　ふるあ
なるあ　ふるあ　ふるあ　ふるあ　ふるあ　ふるあ　ふるあ　ふるあ
世の補ひとすへき心所也
一万葉集ハ古今集ハ唐詩　伊勢物語ハ
者ハ倭風之多情　源氏ハ荘子與天台書
一百人一首ハ百人一首と字字とあるハよりしてよ
一の字ハ人の字ハよりよりてよう関一ぬやうり
よしの習ひや
天智とはてもむ　朽綜天皇ハ　朽綜の二字也

すみてよしや　山ノ寺とよむし　法師　多くは法師
はくわ法師（ホツ）こつめてよむしや　丸の字いはゆ　麿（マロ）とよむし
陽成院（ヨウゼイ）　陽成院（ヤウゼイ）とよむし流もあり　左原（サハラ）　氏の所名
ひかもばらや　平の忠さてやわらや　文室（フンヤ）すみてよむし
文字も文屋も倍字や　貞信（テイシン）公　正生忠峯
氏の所すみて　家の時　清原（キヨハラ）し　家通用の事や
坂上（さかのえ）とよむし　坂の上（え）とよむしうし　深養父
源やぶとよむしうし　源（ミナモト）ようとよむし　文室朝康（アサヤス）
ともやとよむしうし　赤染衛門　清原

檀ゆ紙書　檀ゆと清原し　ひかるとよむし　法師し
祐子内親王家紀伊（キイ）とけちとよむし　宗源院（ソウゲン）
ちとよむしうし
和泉のぐ山　ひかるもねんとも上はけそよむし
はくぐれ　古今の序ちそはぐ山とよむし
ちはの月　ちらいでぱ　まちいでとよむしうし
月かたらでよみうし　人ちらいで
ちのうれ　清原し　人ちらいでおもれもあり
のう文字すむしうしなるとのうちうくとよむし

[illegible]

[illegible]

定家卿自の筆の中金紙[illegible]

[illegible]

上へ[illegible]て山音[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]定家卿の自筆[illegible]

けり也　滝川[illegible]

一百首のうち五十の秘哥[illegible]人也　長撰仲也

忠岑　定家この五人乃哥也

一古今の序のうち[illegible]

[illegible]

引[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かぶりの面すべきさのわのことをすまうこと
ともしてすべきこともしへうす
清府すむ　ぬまのうちよ　清水のことわ　ようれ
みとよむや
むつぶ　あのこころ　ふかさわ　ぬまや　すみてよむや
仲あの川　すみてより　長川とふ　やれも　すみてとる
こころ　ふかく　ものこと　ぬてすむし
杉　ものの面　すむし　杉まはるあをば　面
まぶかう　こころぶすむし

ちぶさ　すむ　ちのよ　わこぶみ　わこぶこと　こ
五字　すむし　痛紫　夏の雪　ちのこ　ちのこ
澤　高心　ぬまを　すむや　千舟　百舟　いはれす
雨雲　雨ぶり　朝あぶけ　名の心や　万葉　朝
あげ　みこと　相撲の　ぬまを　ちのこ　ちのこ
と　ぬし　こころ　心の　そづれや
ぬぶ　ぬぶ
紅　男郎　上　神社　よみ　ふと　弓棚　嵩
ちぶ　月ぐぶ　月ぐぶ　ちのこ　人ぶ

天鱠　橡樟舟　舟の字泄泊し　楚ふぼ　青
ふいつる浮や　大白雪と　ちや　ゆぶぽけ　ぶぽけと
泄つるる　新　ゆ　ぶぽけ　ぶぽけと泄
ふや　清てよし　流もけり　岩ぐさ　泄つるる
秋の雲　月　名島　泄泊し　すぐるのすゝきかな
雲やゝ　泊　跡　泊すゝきのあらはるゝ　とは
あぐつむ　すゞみの　すゞかゝ　しみ　雪
笠　すゞかゝ　すゞめ　ばば　泄
ひらぶ　泊　泄

高ぐ　泊　雲　雲や　雲　雲の　泄　しや　連　すゝ
白髮　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　しゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゆ　ゝ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
千貫の　和　ゆ　ゆ
陸奥　陸　陸　陸　陸　陸　陸　陸　陸　陸

ちかめし

[illegible]

[illegible]

いつくをさやの中山や

宮崎のはつせ　はつせ　とくばるし　あはせや

かつらぎさ　曉のうや　くもぐも　わかれど

くもわが　くもりご　みづ川　播川をすみて　長

はつ乳はつせや　新書船　わくのぐかいとも

わくのぐかいとも

そうばくさ　そうばくさ　桜ぐさや　桜ぐさの花

桜はわくごのもわ　わくごのもわとも　し

わくもくさのもう　はつせ　ひとそば　ひとそば

ものごもり　雨そぼ　あさぐ　沒く

あくもあくかなる　ものや　ものごさ　ひとばへ

ぜみのもろ声　はるのもろこ　すみてよもや

多くなるや　なくなく　ゆくくや

いせものかちのうち　ちはうすみてよも　ちはげう

さの国　くくぶ　浪原(ヨウロウ)　原(ヒロ)のはざま　桜原(リハラ)よも

なりこれ　ちごのみ　あぶらぶくみをもけらとと
の字紙にてもよむべし　みそうあて　いぶこのあ
いこのあ　あ説や　わらぶ　めしぬ　くいあん
まちさけとさざんでとよむしこざみでとよむ
へこれ　ほのみやすぶとて　ほのみやすん　ほよむ
へし　ゆゆくまでとせてをまんでとあへし
なふのとさてくあひて　なんのとあへしれの
格式よくくこりかなてこへし
朱雀院（スザク）　亭子院　とよむなり

西一位とあるを神社まて　西の字をすみてよむへ
人倫のことて　親をとひあとこと
よむへし　あるの男と　ちのるをとむすこ　むや
世官とあるをあるうんとうんとこれへし　院とあるし
陰陽師とて　をんみやうしとよむや　暦の字を
まやくとあるや　時の字　諱の時　をいなし
けうとよむへこれ　信の字　家の字　家にてをとよみ
家にてのをとよむ　奇怪の怪　信明　さねあきや
朔の字　武家にて　朔（サク）　武家にて　朔（サク）とあること

とものあるや　帥の字なんのそらとなるべし
別当をべうとよむ　文殿　淀殿の字けう
とよむべし　勘解由小路　勘解由寺なるべしや
仙洞とは二字なり　様とかけてとのゐるかたるまうこと
公家衆の前りてもはなく仙洞と申すべきこと
よし　資慶卿を仰られ
宮だ殿宮方を人を　殿　とよむべし
細言の二字はけうきとあるべし　作者を
職原ゆえの沙汰なりすべてよみを清濁のなるべし

一様ずつして仰付けるもはなはだとはすまじ
うんなどもはなどの間のはまてもなんど
けねてよむべし　五方と何もゆうべみ十
二の時あるべ十ばかりあるべ二方とあるべ
三位のくらゐとあるべ　位紙　こうらゐとよむべや
弘厳寺　弘厳寺と引べし　ゆくべうあ
町ばかりみちのとあるべ　すくえうとよむべし
くうんさの法師とくづさとよみてはねべや
法の字　方字もしてねんとよむ　法とよむべ

智くゝ釋教の師や　古前き　和尚とよむべし
ひぐらのはくさ　ひぐらの鳴くさとよむ流なり
おりひめのあるばおりばのとよむべしとの説
きちはたなり　寒にみてくらう
舎衛國　さうくとよむ　沙羅雙樹　男女さうさ
修行　すぎ　殊勝　ずぐすくよむ説や
沙羅雙樹　さらの樹　跋提河　ばつだいが　三
藐三菩提　さんもはぼだい　さみやくさんぼだい
涅槃　ねはん　とよむべし

あ面の　ぬるぬる　水寢　ぬめり　古文　ふるぶみ
はりてよむべし　あ面ぐ川　尾花　をばな　ほうこの道
さらさら　細砂　ゆぐり　皆清所
妹　いもかり　淨　きよむ　ゆくゝよくゝ所のくれ
ら清所　あけぼの　秋　あき　清所
古今の序　こきんじよ　古國忌　こくきとよむべし
さつ本　さつ本のさぐ
無　なくはぐくあり　泊り所　泊木　とまり
とぐら雲　とぐれ雲

[illegible]十[illegible]川　[illegible]のはしにて[illegible]
[illegible]
[illegible]
山[illegible]　いはさき　妹[illegible]
はし　有度濱とよむ　[illegible]
[illegible]
[illegible]　波[illegible]
時[illegible]　雪[illegible]濱の[illegible]
御[illegible]

[illegible]
神書のうち
彼方屋　繁木が本に燒[illegible]乃敏[illegible]
[illegible]
吾皇御孫乃　[illegible]乃御舍仁
畔放地滿手　埋[illegible]放地[illegible]
[illegible]神[illegible]
[illegible]佛出[illegible]
[illegible]

一すべての古歌 異訳の部をみるに漢詩へうつし
万葉の異訳二首 古今の異訳 百人一首の異
訳 新古の大概のほ[illegible]めの部 皆くその古りし
[illegible]てのうつしあらためや 漢詩のとさまも
和歌のさまのうつしよりぬのなるひや とりわけ
唐の代りそめのものもわしくも異訳の一首
異訳乃百ちよりあるべきみちやかはりて人
ようしに伝ふるよりは異世の異名のようなる一新の
異訳多細あるべきなるべし

一古文真寶漁父辭 亡顔一叶の事 古来古訳
雖[illegible]て人ようよりは林道春考て粗明白也
清醒纓 庚耕清一韻 移醸(イリ)為 支脂一韻
波 麻韻 衣(イン)汝(モン) 文侯一韻 濁足(ダクソク) 一韻
白埃(ハクアイ) 史記屈原傳塵埃之二字作蘊蠖(ツルウン ノノウニ)
是よりて亡顔也 衣の字音 啟(コヘイン)而謂(イハユル)一戒衣(タビ)言(ゴン)一戒
啟也見禮記(ライケンガ)鄭玄註
五山の長老古文十三異抄 この[illegible]の和訳
書あれども此説をみて三百余年の一説

三顧一叶古顧一叶の無而乃ちひと皆ちから
事や考へてみるべし

一陶淵明の詩採菊東籬下悠然見南山
古の面白き事第一の達広也と葛常之顧語
陽秋にみえぬ世間古の言ものを言遠ある事成
なりて帰去来乃賦一篇をもつくりたる
帰去来の字ふ達广を及ぬ道徳の骨髄なる事
古の人をもしいさの味ひとちくしうを西とかくる事
なるべし

一刘伯倫の酒徳頌乃ち多語有夫人先生の五言
林以正註して假託辭とする刘伯倫の自
假をもうけていふをはかる講することにつくる心中の
大徳酒をつくる物ふかうす言明の夫人先生
やその大人先生ハ起居動静ハ酒のこと
なり

一五柳先生傳り先生不知何許人亦不詳其
姓名古人まこと淵明の自ら事成ることを
はかるふやとも事をくみることすかの

一心言上ハ先生ヤこの一心高上乃先生ヤ素ヨリ
ヨリ玄ヨリ玄ヨリ渾〻ヨリ渾ヤ也始モ
なくなくヤ心ヤこの池泛ヤこまずして文
を傳するあめ文字乃糟ヤ乃粕ヤよく学
し

一蘭亭記王羲之乃筆一生の出来ヤ也鼠の須
の筆ヤ二十八行三百二十四字乃内行ノ
文字ヤ皆別体ヤ中ヤ之の字多し二十
行ヤ面くよ寝じて甚妙ニ同ヤ論者称

甚筆勢若遊雲矯若驚龍ヤ
矯龍の泡ヤ積乃活ヤ也筆法ヤ
すりすりヤ行ヤ字形のかたちヤ
とかふヤのかたぬ筆格ヤ
ヤ義ヤ有ヤ皆死筆ヤ
文字の姿相十八種あり
の筆ヤ余妙八の一面の青蓮院
ヤ面ヤし時この法ヤ
一王秋江と子文人侍ヤ乃ままヤ筆道ヤ

義之ノ筆法俗なりといへども余この法をおもふ
文如ニ王羲之ノ狂體 字若モ義之カ一サニ倍姿

一赤壁賦

白露横ル江ニ水光接ル天ニ と蘇老泉ノ書
露のよこたふるといふ詞ハ水を也
とをわて留程の長句よ
ちかくの句乃詞よりよこたふ柳ノ
とをくの柳の一字をてよくよこたふる
東坡もうかゆくしし

一唐音と高麗二音の事ハ
八五ハ四ニ二つよりかなひ五をこの時
本音かしを
一を五とふを
四を二つよりかなひ
五八三イ一とを
二三の本音を
引をはねくめるをはねる入音の何をこゝもすを
三字中男

ア五 イウエ
カ四 キクケコ
サ三 シスセソ
タ三 チツテト
アンハヲン
ケンハキン
ソンハスン
ナンハナン
ツンハツン

東 引ハ ハヌル　珍 ハヌル ハヌル　格 入声ノ足 キル　達 同
ワン　ハヌル　コ　タ

玉 三字 中畧　各 同格
ギョク　リャク　ガク　リク

一十三ム一ア二ミ一タ三フ入声ノ

南無阿彌陀仏 下琴

五ノ三ム五ヲ二ミ五ト三フキル也

一呉音よりの事呉音は日本より近き事なり
入唐の僧徒も呉国より入唐色を法として經文

神呪音よりの事なり漢音なり
一真言乃理趣經は漢音なり事しれん
一真言の悉曇（シツタン）を伝授すへきなり余わる者
御よ然望していまるひぬ悉曇とまるへ
ばく和語の心ようとまるとこ所ばかふとく
所とおもいまるとこふようとまるのひくさよ天地
万物のうるとこと心わり学者ふまるへぬ
事や呉悉曇よりして時明るや
一老子を生しまるとうして白骨や　玄妙内篇（ケンメウタイヘンニリモ）李母

懐胎八十一載道逍李樹下迺割左腋
生而白首故謂之老子
人皇廿三代清寧天皇の雄略の子也母は葛
城の韓媛と云ふ圓大臣の娘也この天皇生れ給
ふて白髮白ひげ白髮の天皇と名付ぬ
和漢の事物に人皇せくこと
一源氏を和國の筆と細川宮肯法印の庵法
家本居長為孝齋とひし武士母刃の牧を仕
終余者の時より隨分の事迄相傳して

和歌をもつくり給ふ時は
孝齋云有法印世間の便なる書をもつ
くり給へとて作り給ふ源氏物語
若一部ひしまさに学の物語也とて
問給ふて初めて源氏と若紫とをかゝ
源氏をすみぬる事を初めぬ源氏を百遍法
ゆ[illegible]ゆ[illegible]高の学問の事
より孝齋也[illegible]
源語秘決と云ふ一巻は源氏の奥の抄十五

簡除あらりて侍授すること其の日録事

一 さわらぎ　源氏の服有無の事
一 中ぶく　扇名代すけのこと
一 同　侍童（ワラハ）名（キ）招賀（ヲ）事
一 花のあん　花もてくまれ給へこと
一 あかひ　大ねうの随身の事
一 同　神のこと　こうはつのこと
一 同　高もいよいよ給へのこと

一 さゝ木　とのゐすくろのこと
一 あゝ　まくるのこと
一 うちもの　わ君さを引ゆ給へこと
一 をもん　をしいもたわうの事
一 ゐつゝ　水ゐ代くふまる高こと
一 えい祝　言中ぶの事
一 ゑて姫　はのよりをいの事
一 あしのこと　はいらうの月乃事
一 あらう三ケのたもと　扇名の外　紙のこうはつ

とのゐの法皆也 源氏 人伝 むすめ
のうやとさすれ 家人 ものさま 馬 世話
和 閑 むさ 仕 よ 面 すく 也 かわし

江戸日代橋南一町目
万屋清兵衛板